

卒業を、「巣立ち」ということばでとらえるようになったのは、いつの頃からなのだろうか。園を出ていく子どもたちは、そのことはさながらに、いま、羽ばたいて飛び立とうとしている。もうしばらく一緒にという保育者のおもいなど、顯る余地もないほど、彼らの視線はひたすらに前方だけを見る。飛ぶことを覚えただけの幼い羽は、その力の許す限りより高く、より遠くへと、飛翔することを目指すのである。恰も、ふり返らないことこそ、幼い者の特権である、とても言うかのように。こうして子どもたちは、晴れやかに、幼年期と訣別する。

然し、私どもは、ある瞬間、突然よみがえってくる自身の「幼年期」に、愕然とさせられることが珍しくない。こんな感覚が、こんな時期まで、しかもこんなにも鮮かに保たれているとは！人間とは何と不思議な生きものであることか。

1235

本田 和子

漸く歩き始めた子どもが、一足一足、不自由な足を持ち上げながら階段を上っていくのを見て、自分が歩くことを学んでいたあの時の感覚が、まさまじと下肢によみがえってきた、そんな体験を語ってくれた人がいた。古い絵本を手にとった途端、読んでくれた保育者の声と、壁のペンキのにおいが突然想い起こされて、我ながらショックだったこともある。

人生の最初の時期に、私どもが体全体で把握した「始原の世界像」は、不死のイメージとして、私どもの中に生き続けているものらしい。それは、ことばや概念として再生されるような、そんな記憶ではない。かつての日をそのままに出現させて、「私が私であること」を確認させるような、存在の根なのである。いま晴ればれと羽ばたいて、巣立っていく子どもたちの中には、どんな「幼年期」が刻印されているのだろうか。

幼児の教育 第七十六巻第三号

三月号 ◎ 定価二〇〇円

昭和五十二年二月二十五日 印刷
昭和五十二年三月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番
◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。